

Research interests: language learning beliefs, can-do assessment, learner autonomy, collaborative learning activities, and foreign language education policy

【研究概要】

◆ 専門分野は英語教育です。特に学習者ディベロップメント（学習者要因）に関心があります。自律して学習に取り組む能力を身に付けることで、人は学校を離れたあとも学習を続けていくことができます。そんな自律学習を英語教育において効果的に支援・促進する方法が研究対象の一つです。具体的には、学習者ストラテジー（学習者が効果的な学習をするために行うこと）、学習者ビリーフ（学習者が言語学習に関して持っている考えなど）、学習方法や動機づけとの関連（特に協働学習の効果に関心があります）などを研究のトピックとしてきました。自律した学習を目標としたカリキュラムの開発、授業運営にも携わっています。

◆ 2001年にニューヨーク州立大学バッファロー大学（State University of New York, University at Buffalo）で修士号（Master of Education）を取得しましたが、その際の専攻が英語教育（Teaching English to Speakers of Other Languages: TESOL）。大学院に進学する前には鹿児島県の公立高校に英語教諭として3年間勤務しており、研究の中心は英語教育です。一方、短い期間ではありますが、日本語教育に携わった経験があります。また、英語偏重の日本の外国語教育に疑問を感じる点も多いので、英語教育のなかだけにとどまらずに外国語あるいは第二言語教育を見ていきたいと考えています。

【研究テーマと論文】

① 学習者オートノミー（自律性）

自分自身の学習に責任を持つ能力のことです。Henri Holec は“Autonomy and Foreign Language Learning”（1981）のなかで、自律性を備えた学習者は、目標を設定する、学習内容や自己成長

下 絵津子（SHIMO Etsuko）

shimo@socio.kindai.ac.jp

◎ 所属・職名

教養・基礎教育部門 准教授

◎ 研究室

言語教育研究室



の度合いを把握する、学習技術・方法を選択する、習得過程をモニターする、習得したことを評価する、といったことができると述べています。そのような能力として説明される学習者オートノミーと学習活動の関連性などを、以下の論文で考察・分析しました。

- (1) Shimo, E. (2009). Dynamics of Learner Autonomy: Components and Changes. *JACET Kansai Journal 11*, pp. 33-49.
- (2) Shimo, E. (2008). Learner Autonomy and English Language Proficiency: An Exploration among Non-English Majors at a Japanese University. 『語学教育部紀要第8巻第2号』 pp. 153-178.
- (3) Shimo, E. (2003). Learners' Perception of Portfolio Assessment and Autonomous Learning. In A. Barfield & M. Nix (Eds.), *Teacher and Learner Autonomy in Japan, Vol. 1: Autonomy You Ask!*, pp. 175-186. Tokyo: Japan Association for Language Teaching, Learner Development Special Interest Group.

② 協働学習

①の学習者オートノミーとは、必ずしも「一人で学習する」ということではありません。人間

は社会的な生き物。むしろ、人と協力する活動を通して学習者オートノミーが促進されると考えられます。例えば次の論文で、協働学習の効果を考察しました。

- (1) Shimo, E. (2014). Collaborative Learning Activities and the Motivation for Learning English: An Exploration of the Relationship between the Two in a University EFL Classroom. (Chapter 4 in *Collaborative Learning in Language Development* (Tim Ashwell, Steven Paydon, Masuko Miyahara & Alison Stewart, Eds.) <<https://www.smashwords.com/books/view/503846>>
- (2) Shimo, E. (2008). Student Empowerment through Portfolio and Cooperative Learning Activities. 『語学教育部ジャーナル第4号』 pp. 91-103.
- (3) 下 絵津子 (2007) 「語学教室における協働学習と自己理解・他者理解」『宮崎と異文化理解 / 摩擦と融和』宮崎公立大学地域研究センター平成18年度研究プロジェクト「国際宮崎研究 II」実施報告書〔「国際宮崎研究プロジェクト (代表：倉真一)」編〕 pp. 14-24.

③ 教師ビリーフ

学習者ビリーフに関心があり、修士論文では日本人英語学習者のリスニングストラテジーとビリーフをテーマにしました。一方、教師のビリーフも教育効果・学習効果に影響を与える一因となります。教師が学習者に何を期待しているかによって学習者の最終的な学習成果が異なってくる可能性があります。平成25年～27年は科学研究費の助成（課題番号：25770215）を受けて、日本語母語話者英語教師と英語母語話者英語教師の間で教師ビリーフがどのように異なるかを調査・分析しました。関連論文は以下のものがあります。

- (1) Shimo, E. (2016). English Teachers' Perceptions of Students' Personalities and Attitudes:

Comparing English L1 and Japanese L1 Teachers. 『近畿大学総合社会学部紀要第4巻第2号』 pp. 35-55.

- (2) Shimo, E. (2014). Teachers' Beliefs about English Learners at Universities in Japan: A Review of Previous Research and Findings from a Pilot Study. 『近畿大学総合社会学部紀要第3巻第2号』 pp. 31-48.

④ そのほか

◆ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）、ポートフォリオ評価、‘Can Do’リストの活用なども研究のキーワードにあります。◆所属学会は全国語学教育学会、大学英語教育学会、日本言語政策学会、日本「アジア英語」学会などです。

【個人的に好きな時間】

- ☑ プール！頭をからっぽにして水のなかで前進していく時間が自分にとってとても大切。普段忙しくてたまにしかいけないのですが、そんな時間やその時間をとるために協力してくれる家族に感謝しながら泳いでいます。（註：好きなだけで決して速くは泳げません）
- ☑ 15分で作る料理。料理が上手なわけではありません。ただ短時間で複数の品が作れたときはとても嬉しい。でも、本当は子どもたちがどんどん食べるメニューをもっと作れたらなと思っています（笑）（註：娘が二人。子どもに私の腕前は聞かないでください。）
- ☑ 寝る前の読書。毎日何か読んで寝たい。ミステリー小説を読んでそのまま夢の世界にいくと大変なこともありますけどね（笑）。



【研究室に興味のある方へ一言】

👍 自分で調べる、批判的に考える、体験してみる、やってみる、という姿勢を大事にしています。